

ENCOM YOKOHAMA

ニュースレター No.5

December 2018

カトリック横浜教区難民移住移動者委員会

〒231-0055 神奈川県横浜市中区末吉町 1-13
カトリック末吉町教会内
TEL : 045-315-7040 FAX : 045-315-7080
E-mail: encomyoko@gmail.com

□クリスマスと新年おめでとうございます！

□第3回 国際フェスタ～ひとつになろう、キリストのうちに～



教皇メッセージ「移住者と難民に対する受け入れ、保護、促進、共生」を受けて、「横浜教区第3回国際フェスタ（ENCOM YOKOHAMA 国際フェスタ実行委員会主催）」が、9月23日「世界難民移住移動者の日」に藤沢教会で開催された。今回のテーマは「ひとつになろう、キリストのうちに」。地元神奈川県の小教区、修道会はもとより静岡県などからも約700人が集い、6言語での国際ミサに続き、各国信徒共同体的手作り料理、民族舞踊や修道者に扮した子どもたちの歌など、好天に恵まれた日曜日の敷地内は

足の踏み場もないほど賑わった。

ミサの説教で梅村司教は、「教区一丸となって集いを持つことを嬉しく思う一方で、日本全体も世界も、より閉鎖的、保護主義になり、違いを理解し尊重し合うのとは全く反対の道を歩んでいる気がする。日本で外国人が働く厳しさを突きつけられる痛ましい事件も多発している。難民申請者 2 万人のうち 20 人しか受理されない現実の中にあって、私たちは人種、民族、言葉や生活習慣の違いを乗り越え、エウカリスチアを通して互いの交わりと一致を深め、信仰者として共に教会の使命を果たしていくよう努めましょう」と呼びかけられた。続いて「もともと小教区は『寄留』（国を離れて母国外の地に身を寄せる）を意味していた。神の民は旅する民として天を目指していた。『私たちの本来の国籍は天にある』ので、それを目指して共に手を携えて旅している。キリスト者である私たちは例外なく寄留者、その意味をもう一度思い起そう。天におられる父のもとで私たちは兄弟姉妹として生きているはず。『ひとつにしてください』というイエスの遺言を本当に大切に、その宣言が偽りの祈りにならないように。またそのことを日常生活の中でも証しできれば素晴らしい。今こそ私たちの果たすべき使命が重要になっていく。主イエスとマリア、ヨセフの聖家族も難民であったことを思い起そう。難民として生きる難しさを自ら体験された聖家族に信頼を持って祈り、希望を見出しながら共に歩んでいきたい」と話された。

ENCOM YOKOHAMA 委員長の本柳神父は、「外国につながる人々を尊重して共生するために、教会の姿は日本の姿。いずれこのようになっていくのではないか。共に働いていけたら」と挨拶された。

国際フェスタ実行委員長の市岡神父は、「交わりと一致の姿を実現できて感謝。テーマは実行委員会と共に考えた。神奈川第 5 地区共同宣教司牧委員会と外国籍信徒コミュニティ、ENCOM の協力で実現した。またここから元気に多くの多国籍信徒と共に歩んでいけたら」と締めくくられた。

このフェスタは第 1 回が末吉町教会で開催され、「神奈川中心主義」にならないよう 2 回目の昨年は静岡で開催された。今回はペルー、中国、韓国、フィリピン、ベトナムの 5 か国の共同体（前回と前々回はブラジルも）と第 5 地区の小教区から 2 人ずつ実行委員が参加して半年前から準備を重ねてきた。ミサが各言語を繋いだ「パッチワーク」にならないように聖歌も 6 言語で共に歌い、祈りの心が途切れないように工夫した。今回初めて参加した近隣教会の信徒も、自分の教会では出会うことのない外国籍信徒と触れ合うことができ、彼ら彼女らの喜ぶ顔が自分の喜びになるのだと実感し、この体験を伝えていきたいとの声を寄せた。



□学習支援

毎週土曜日に行われている学習支援に加えて、子ども昼食会(キッズカフェ)のある第3土曜日のENCOM YOKOHAMA 多目的スペースにニュースレター取材班がお邪魔しました。今日は集まった外国につながる子どもが4人(小4と小5の姉弟、小5の女の子、中1の女の子)だったので、シスターと先生がマンツーマンで接していて、私塾のような雰囲気。丁寧に一人ひとりに向き合っていて、まるで家庭で子どもが宿題のわからないところを親に聞くような、ゆったりとくつろいだ時間が流れていました。

子どもたちは皆素直で明るくおしゃべり。今日のデザートはイチジクを初めて食べる子は、おそろおそろ…。家でもお手伝いをしているらしく、「スクランブルドエッグが得意」「小松菜を茹でて鰹節をかける」などと声が飛びます。好きな俳優を聞いてみると、山崎賢人、風間俊介、ブラックピンク(誰だ、それは!?)などと笑い転げているかと思ったら、夢について尋ねると、「看護師!」「警察官!」「デザイナー!」「ダンサー!」とすぐに弾んだ声が返ってきました。

かぼちゃのスープとスパゲッティ・カルボナーラという粋なランチが終わって勉強の時間になると、子どもたちは今までとは違って集中して勉強に取り組んでいます。宿題のなかった子はシスターからドリルを借りてやっているし、そろそろ飽きてきた子にはシスターと先生がそれぞれにあった課題を作ってしっかり今日の確認をしています。勉強の合間のおしゃべりは、小さかった子が10センチ以上も背が伸びたこと、この間の運動会のこと、足を骨折してしまったことなどなど・・・ほのぼのとしたやりとり。

ここが子どもたちにとって安心できる居場所だと思ってもらえればいいということで4年前に始められた学習支援教室。日頃、「共に」と簡単に使うけれど、「共に生きる」ためにはたくさんの時間と知恵と思いが必要なのだと、改めて気づかされました。



□ 講演会

排除 ZERO キャンペーン～国籍をこえて人びとが出会うために

7月14日（土）藤沢教会聖堂にて、横浜教区福祉委員会と難民移住移動者委員会 ENCOM YOKOHAMA 主催・カリタスジャパン後援による「排除 ZERO キャンペーン～国籍をこえて人びとが出会うために」のテーマで研修会が開催された。

講師は、イグナシオ・マルティネス神父（カトリック中央協議会・社会福音化推進部部长）、瀬戸高志神父（カリタスジャパン援助部会秘書）、それに難民認定申請が繰り返し却下され、收容されていた入国管理センターを現在仮放免中であるガブリエルさん（ナイジェリア出身 1991 年初入国）。

東南アジア、中南米からの移住者が特に多い藤沢市。湘南の猛暑の中、空調のない聖堂にさまざまな国籍の 80 名余りの人々が参加し、皆汗を拭いしつつ、「教皇フランシスコはなぜ

今、難民移住問題に教会が取り組むことを緊急課題とされているのか」また「国際カリタスの戦略的枠組みに対する日本での取り組みについての回顧と展望」それに「日本に難民申請して入国した移住者としての生活と教会へのメッセージ」について、講師らがスピーチを行った。



まず、イグナシオ神父は、教皇の生い立ちが元来、多民族多国籍家族の中で育ち、共同生活と「外に出る」司牧を旨とするイエズス会士であることなどを紹介した上で、「全てのキリスト者はこの世において寄留者であり、本籍は神のふところである」との言葉を引用し、国籍をこえて神の国を目指す共同体を実現するために、教皇みずからの行いにならい、回勅『ラウダート・シ』や使徒的勸告『愛のよろこび』等にあらわされた教皇の思いと言葉を実生活で証しするように、わたしたちは招かれていると強調した。

続いて、瀬戸神父からは、反貧困キャンペーンに続き、国際カリタスが『ラウダート・シ』で提示されたメッセージ、特に「誰一人として排除されたり、存在を無視されてもよい人はいない」との教皇の呼びかけを基調に開始したキャンペーンを、日本ではカリタスジャパンと日本カトリック難民移住移動者委員会とが共同で「排除 ZERO キャンペーン」として展開していることを紹介。

最後に、ガブリエルさんは、英語通訳を交え、自身の現状、つまり入国管理センターへの収容を繰り返し余儀なくされ、仮放免中の身分という不安定で、十分な法的・社会的支援もほとんど得がたい状況であることを前提にしたとしても、紛争や内戦による混乱が続き、安住の地を求め多数の難民が、その過中で命を落としたり、政治や宗教的理由から差別的処遇や貧困の再生産が生じていること、さらには人身売買すら平然と横行している中東諸国の現実と比較すれば「日本での生活は、ある意味ではるかに恵まれている」と話す。だからこそ「日本の難民受け入れ方針が世界的にも著しく厳格であることは、自ら経験したとおりであった。しかし、日本の皆さんは『もっと多数の難民を受け入れるべきだ』と訴える以前に、まずは『日本が難民受け入れに及び腰である』という事実だけでも広く知られるように願う」と、力強く語った。

研修会は、全員で「排除 ZERO キャンペーンの祈り」を唱えて締めくくられた。

排除 ZERO キャンペーンの祈り

力ある神よ、
わたしをあわれんでください。
恐れと孤独の中にある
わたしの避け所となってください。
故郷（こきょう）を遠く離れ、さまよっています。
残してきた家族への思いで
わたしのこころは騒いでいます。
神よ、人々の叫びを聞き、助けに来てください。
わたしの中にある不安と
疑いの激しい嵐を鎮めてください。
知らない人々の中にあっても

わたしの前を進み 導いてください。
人々の優しさとあわれみによって どこにあっても
あなたがわたしを喜んで迎えてくださると
信じることができますように。



☞☛✳️🌀 研修会のご案内 ☞☛✳️🌀

2019年度の第1回研修会は、2019年5月25日(土)10:00~12:00

場所は、カトリック鹿島田教会1階ホール(川崎市幸区)

テーマは、「難民について~日本の難民政策と現状」(仮題)

講師は、駒井知会弁護士

チラシが出来次第お知らせします。

第4回国際フェスタは2019年9月 浜松にて開催予定。

☐ ご協力をお願い

病気や怪我などで働けなくなり困窮している外国人とその家族や、入管に收容されている外国人支援のため次のような物が不足しています。ご寄付をお願い致します。

食料品：お米、レトルト食品(カレーなど)、カップラーメン、インスタントコーヒー(袋入り)、砂糖等(賞味期限・消費期限に余裕のあるもの)

日用品：石鹸、洗濯用洗剤、シャンプー、歯ブラシ、歯磨きチューブ、タオル、

文房具：便箋、封筒、ノート、ボールペン

衣類：男性用ジャンパー、Tシャツ、ズボン等(Lサイズ以上)

☆新品または洗濯済みのもので、ひどいシミや傷のないもの

☆背広、Yシャツは受け付けておりません。

男性用靴下・下着(Lサイズ以上)

☆いずれも新品、未使用のもの

男性用運動靴(26cm以上)

その他：英語・スペイン語・ポルトガル語聖書、日本語テキスト

☆宅急便の場合は火～金曜日（10:00～16:00）の間に届くようお願い致します。

□ ご寄付のお願い

ENCOM YOKOHAMA の活動は一般寄付金とカトリック横浜司教区からの助成金によって支えられています。ご支援をよろしくお願い致します。

郵便振替 00270-7-98145

加入者名 ENCOM YOKOHAMA

その他の寄付については下記までお問い合わせください。

ENCOM YOKOHAMA 事務局

Tel.045-315-7040（火～金 10:00～16:00）

E-mail: encomyoko@gmail.com

ホームページ : <http://encomyokohama.jp/>